作詞デキ～ル

みんな～！　「作曲デキ～ル」で曲はできたかな？
自分の曲ならぜったい歌詞も乗せたいよね！

というわけで、書いてある順番どおりに作業を進めると
自分だけのオリジナル歌詞が完成しちゃう
その名も「作詞デキ～ル」を用意したよ！

挑戦してみてね～～

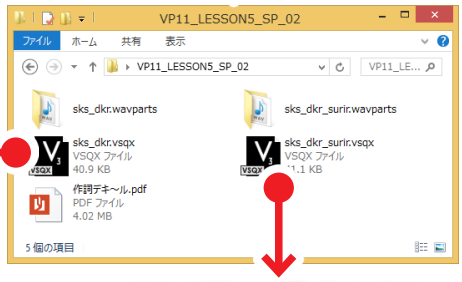
作詞体験用のサンプルソングを読み込もう

ではまず、付録 DVD に収録されているサンプルソングを開いて準備しましょう。いつものレッスンと同じように、DVD メニューからフォルダを開いて、PC にデータを保存して、そこからファイルを立ち上げます。

DVD メニュー画面

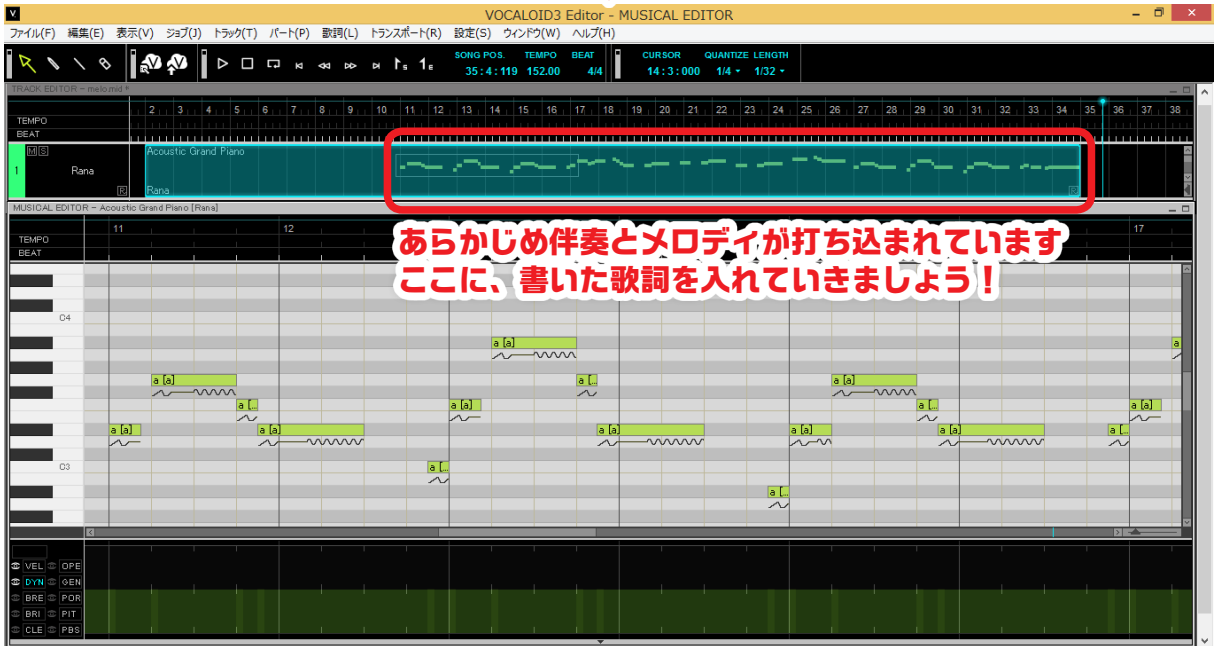
クリック!

データをすべて
PCにコピー
しましょう



sks_dkr.vsqx
をダブルクリック
して次のページへ
GO!

サンプルで完成させた
歌詞が入力されている
vsqxです



あらかじめ伴奏とメロディが打ち込まれています
ここに、書いた歌詞を入れていきましょう!

ステップ1

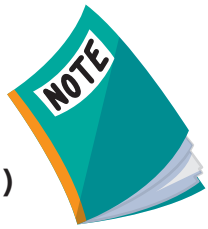
「作詞のレシピ」を作ろう!

いきなり歌詞を書き始めるなんてムリ！　というわけでまずは準備編として、用意するもの、何をとっかかりに歌詞を完成させていくのか……などから始めましょう。

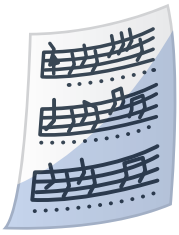
この歌詞でどんなことを伝えたいのかをレシピにしよう

作詞には、いわゆる“詞先”と呼ばれる、歌詞を先に作ってから曲をつけるものと、“曲先”と呼ばれる、楽曲を先に作ってから歌詞をつけていくものとがあります。シンガーソングライターの方などは、「一緒に浮かんじゃったぜー！！」なんていうこともありますが、今回やっていくのは“曲先”です。歌詞が乗るのを今か今かと待ち望んでいる、「歌詞待ち曲」にどんどん歌詞を乗せていきましょう。

まず、用意するもの。



- ●ノート
- ●ペン（ボールペンやえんぴつ）
- ●パソコン（清書用）
- ● MIDI データ（譜面作成用）
- ●譜面（プリントアウトしたもの）
- ●やる気（ある意味これが一番重要！）



これは自分の曲を作詞するときに用意するといいものです。
今回はサンプルソングで歌詞をつけていきますから
さしあたって用意するのは……ノートとペンとやる気！

用意できたら、深呼吸をしてさぁ！
取りかかりましょう！

何事も準備をしないとまとまりません！

学校の文化祭などで、クラスの出し物などを決めるときに、いきなり一人で大量に焼き鳥を買い込んでくる、なんてことをしたら、クラスはまとまらなくなってしまいますよね（笑）。「まずは一体何をやるのか？」をホワイトボードに出し合って決めていくと思います。

作詞もこれに似ていて、闇雲に書き進めていくと、「あれー？」「何が言いたかったんだっけ？」とか、途中でつじつまが合わなくなってきたり、一人称が違ったり、言葉遣いが変わってきてしまったりします。

そうなると、伝えたいことがわからず、「結局何がいいたいのかがわからない歌詞」になってしまうことがあります。ではどうすればいいのでしょうか？

まずは初めに**「歌詞のレシピ」**を作ればいいのです。それではレシピの作り方、いってみましょう！

まずは「イメージ」を浮かべ、そこから「テーマ」を決めよう！

ここでは、「作詞デキ～ル」のために用意した楽曲を元に進めていきます。まずは VOCALOID™3 Editor で「sks_dkr.vsqx」を聴いてみましょう（P.02 参照）。そして、そこから感じるイメージをノートに書きとめていきましょう。

ここからは“ほんのひとつの例”として歌詞をつけていきますが
皆さんは、同じ歌詞ではなく、自分自身が思ったことを自分の言葉で書き留めていきましょう！

さあ、どんな曲だろう……。楽しい曲？　哀しい曲？　元気になる曲？　リラックスできる曲？　う～ん……よし、これにしよう！

爽やかで、少し切ないけれど、明るい曲

「イメージ」が浮かんだらノートに書き込もう！

イメージが浮かんできました！　これを掘り下げて「テーマ」を決めていきます。「恋」なのか、「友達」なのか、「家族」なのか、「社会」なのか……。例えば「恋」だったら、「片想い」なのか、「遠距離恋愛」なのか、「両想い」なのか、「終わってしまった恋」なのか……という風に考えていきます。ぶっちゃけ、なんでもいいんです（笑）。難しく考えず、思いついたもので！　ここではこんな風に考えてテーマを決めてみました！

これを聴いたのが 2 月だから…「これから春に近づいていく季節だなぁ、別れも近いなあ」
楽曲が少し切ないけれど、そのまま切なくしてもおもしろくないから…「爽やか・明るい」

友情…　季節が変わる、別れ、想い出

「テーマ」が浮かんだらノートに書き込もう！

これを「テーマ」にしようかな？

書いているうちに変わってきたら、またレシピを書き直せばいいんです。思い切って決め込んでいきましょう。正解なんてナイので、アナタが思ったまま、これをテーマにしたいというものを決めちゃいましょう。まずは、テーマを明確にすることが大切です。

「キーワード（モチーフ）」を決めよう

テーマが決まったら、「キーワード」を決めます。テーマだけで歌詞を書き始めると日記みたいになってしまうことがあるからです。これをやるだけで、ぐっと歌詞らしくなっていきますよ！

キーワードは、思いつくものをどんどんノートに書き込んでいきます。ここで書いたものは実際書き進めていく際に役に立つことがあるので、躊躇なく思いつくままガンガン書いていきましょう。

「使いかけの消しゴム」「サイズが合ってきた制服」
「くたびれた上履き」「グラウンド」「プリクラ」「LINE のスタンプ」
「学食」「牛乳」「お揃いのバレッタ」「放課後」「桜」
「試合の後の涙」「教室」「鳴り響くチャイム」etc.

国語辞典などを
パラパラめくって
さがしてもOK!

ふう……いっぱい書きました。ここでテーマを振り返ってみます。
「春、友情」…となっていますね。となると、やはり春といえばこれでしょう！

桜　「キーワード」が浮かんだらノートに書き込もう！

ここまでそろったのは「テーマ」と「キーワード」。よしよしいい感じ、どんどん進めちゃいましょう。

聴いてほしい「ターゲット（相手）」を決めよう

意外と見落としガチなのは、「この曲を聴いてほしいのはどんな人なのか」ということです。これが「ターゲット」です。ターゲットを決めると書き進めていく際に焦点が定まっていきます。そう、万人に受けなくても、聴いてくれてイイって言ってくれるひとがいたら、その作品には意味が生まれるのだから（ ^ ^ ）。
ターゲットは女子にしましょう。女子へのメッセージにすると、自分の中からいろいろな感情やイメージが出てくるかもしれません。ということは、年齢・性別が明確になってきますよね？

友達　10代後半・高校生・女子　「ターゲット」が浮かんだらノートに書き込もう！

一緒に「一人称」も決めてしまいます。この曲の「歌詞の語り手」と言えばわかりやすいでしょうか。「いったい誰の視点で歌われるのか」を明確にします。ここでは「同級生の女子のことを思う男子」という設定にしてみます。すると、高校生くらいの男子なら…「ボク」「オレ」「ワイ」「自分」などがありますね。その中からどれを選ぶかはアナタ次第です。ここでは、ちょっと真面目な男子を意識してこれにしてみました！

一人称「ボク」　「一人称」が浮かんだらノートに書き込もう！

おおー！　だいぶ的が絞られてきました！　レシピの完成まであと一歩です。最後に確認しておかなければいけない、とても重要なことがあります。それは、「楽曲の構成」です。

「楽曲の構成」を確認しよう

現代の歌ものの大半の楽曲は「A メロ・B メロ・サビ（C という人もいます）・D メロ」というもののいずれかの組み合わせによってできています。一般的にポピュラーなのは…

1A → 1B → 1サビ → 2A → 2B → 2サビ→ D → サビ

といった構成で、1A のあとに、さらに 1A' が入る場合や、D の代わりに 3B が入る場合など、楽曲によってさまざまです。また、「A」「B」「サビ」「D」それぞれのブロックは、大概 8 小節ずつ構成されていることが多いです（もちろん例外もあります）。各パートの一般的な特性は以下の通りです。

A メロ：いわゆる導入部分
B メロ：サビに繋がる架け橋の部分（PPPH が入ることの多い箇所）
サ　ビ：曲の顔の部分（CM などはここから流れることが多い）
D メロ：A/B/ サビとはまた別の展開をみせる部分

色んな楽曲を聴いていけば、構成についてはだんだんとわかってくるので、曲を聴くときに構成を意識してみて、そして書き留めたりするといいですよ。では、この楽曲の構成を確認しましょう！

カウント（1 小節） → イントロ（8 小節）
→ A メロ（8 小節） → B メロ（8 小節） → A' メロ（8 小節） → アウトロ（8 小節）

このうち、歌詞をのせる部分は

A メロ（8小節）、B メロ（8小節）、A' メロ（8小節）　**楽曲の構成をノートに書き込もう！**

これで「作詞のレシピ」はできあがり！

作詞のレシピ

- **イメージ**　爽やかで、少し切ないけれど、明るい曲
- **テーマ**　友情…　季節が変わる、別れ、想い出
- **キーワード**　桜
- **ターゲット**　友達　１０代後半・高校生・女子
- **一人称**　ボク
- **構成**　A メロ（8小節）、B メロ（8小節）、A' メロ（8小節）

視覚的に確認しやすいように、このレシピと楽曲の MIDI を譜面に表示したものを、プリントアウトしておきましょう。さぁ、これで「ステップ１準備編」は終了です。ここまでをキチンとやっておくことが、のちにどんどん力になっていきます。焦らずに確実に進めていきましょう！　それでは、次のステップへ進みますよー。いよいよ、実際に歌詞を書いてみましょう！

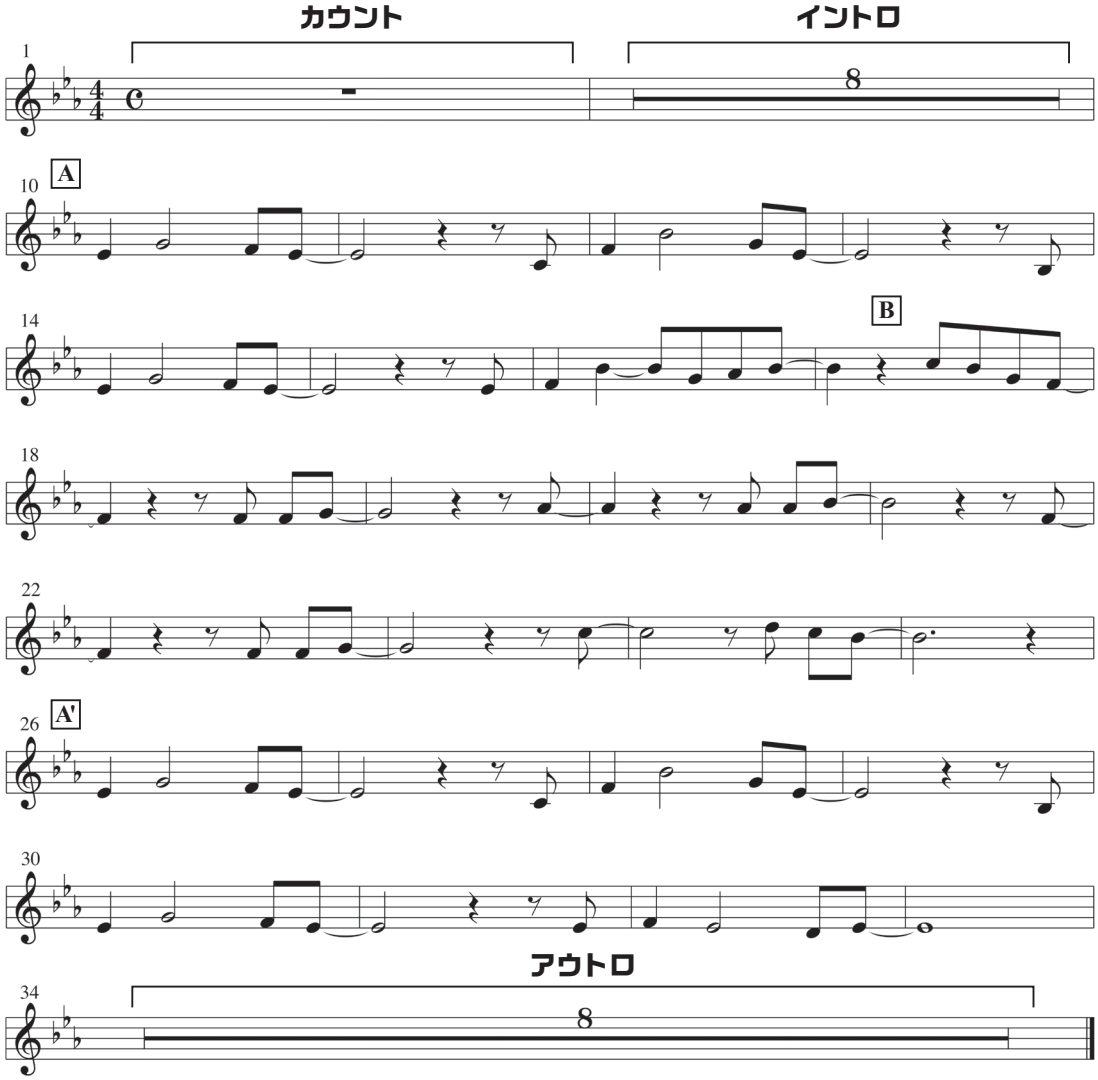
ステップ2

音符に言葉をはめてみよう

さぁ、作詞のレシピも完成したところで、実際に音符に言葉を乗せていってみましょう。まずはメロディ譜面と音源を確認します。

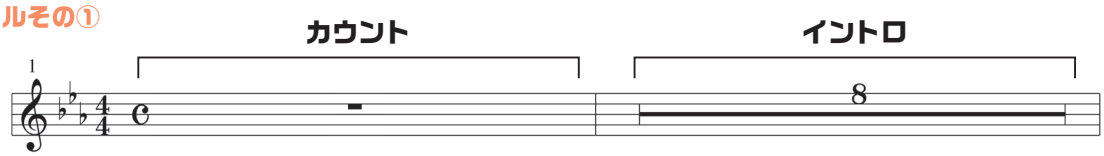
まずは譜面を確認！

まず、今回の楽曲の譜面を確認しましょう。もし自分が作ったメロディがある人は、作ったメロディをSSWにMIDIで打ち込んで、「譜面作成エディタ」を使って譜面が作れますからぜひ挑戦してみてください。



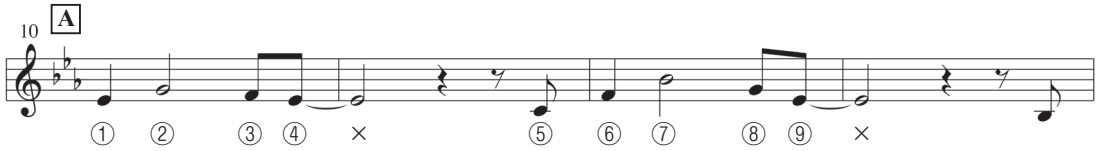
「譜面読めないんだけど〜！」というアナタ、ここで諦めないで！　作詞で使う譜面とは、文字数や、長さ、音の動きなどを視覚的にとらえるための補助ツールで、実際の音程なんか読めなくったって全然問題ないのです。ここで基本的なルールを２つご紹介しましょう。

ルールその①



譜面にある「カウント」や「イントロ」はメロのない部分なので、メロディ譜面上はお休みの表示になります。イントロ部分の「８」という数字は８小節間メロがありませんよ〜〜！　という意味です。

ルールその②



ここでは音符一つに対して一つの言葉を乗せていきます。数字のふってあるところが、歌詞の入るところです。ここでひとつだけ注意点があります。音符と音符が線でつながれているところ、④のあと、⑨のあとなど、ここは「タイ」といって、前の音符と後ろの音符がつながれているところなので、音符２つでひとつの発音になります。ですから、つながれた後ろの音符には言葉を入れないようにしましょう。

以上が基本的なルールです、簡単でしょ？

ここまで読んで、音符に対してどうやって言葉を乗せていくの？　音符一つには文字が一つ？　というのが最初にわく疑問かもしれません。例えば、人気ロックバンド Mr.Children さんの曲、「終わりなき旅」の一番最後のフレーズには、本来４つしか音符のないところに７つの文字が入っています。実はこれも正解です。そう、１つの音符に対して１つの文字じゃなくてもいいんです。

でも、「作詞デキ〜ル」では、まずは基本をマスターしてもらいたいので、原則的に１つの音符に対して１つの文字というルールのもとに進めていきます。このルールに慣れてきたら、次は自分が“かっこいい”と思う感性を大事にたくさんトライしていけばいいんです。

例えばこんな言葉「あぁ　知ら（ず）」なら
1つの音符の中に二文字入れても大丈夫だよ〜。
「あぁ　知ら（ない）」etc.

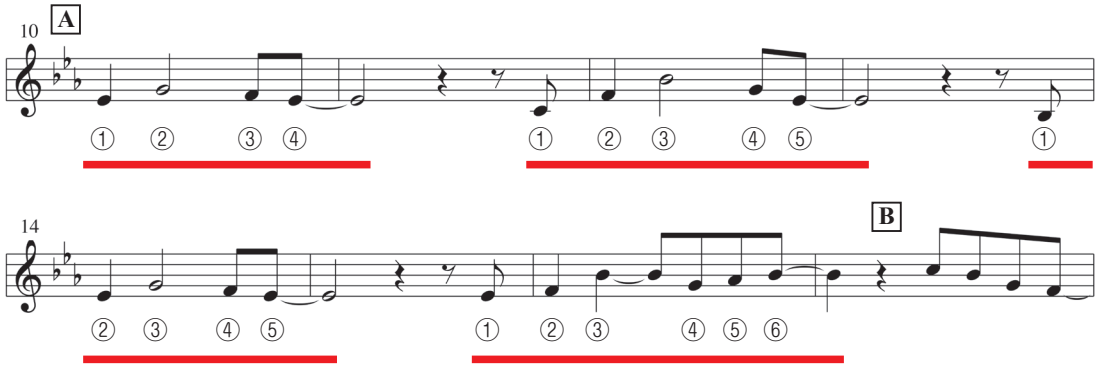
ストーリーの扉を開こう　～Aメロ～　の作詞に挑戦！

この楽曲の構成は、Aメロ・Bメロ・A'メロでしたね。この3つのパートに対して、大まかに展開を決めていきましょう。例えば……

Aメロ…ストーリーの導入　**Bメロ**…展開　**A'メロ**…結末

のようなイメージです。作文を書くときと一緒で、あらかじめの筋を決めていきましょう（ここではスタンダードな展開にしましたが、もちろんAメロに結末があっても構いません）。さぁ、いよいよ音符に言葉を乗せていきます。この楽曲でAメロは、初めて言葉が出てくる部分です。ですので、ここではストーリーの扉を開けていきます。

では、Aメロの譜面を確認しつつ、音符に数字をふっていきます。



今回は、「フレーズ」ごとに数字をふってみました（譜面上赤の線の箇所がフレーズです）。なぜかというと、「フレーズ」は、文章でいうところの読点「、」で区切るイメージですので、このフレーズ1つに対して1つの言葉を考えていくと、歌いやすい、歌詞が聴こえやすい歌に仕上がるからなのです。なお、フレーズを見つけるには、休符の入っている場所などを参考に区切っていくといいでしょう。そうして見ていくと、Aメロには4つのフレーズを見つけることができます。そしてそのフレーズごとの音符の数は…

4文字・5文字・5文字・6文字

このようになりました。では、ここに言葉を入れていってみましょう。

ステップ1で決めた「桜」というキーワードを軸に、さきほど思いつくままノートに書き出してもらったそのほかの言葉の中から、4文字や5文字で収まりそうな言葉を見つけて、当てはめていきましょう。皆さんは俳句や川柳を作ったことはありますか？　あるのであればその要領です。というわけで……こんな風な言葉を入れてみました。

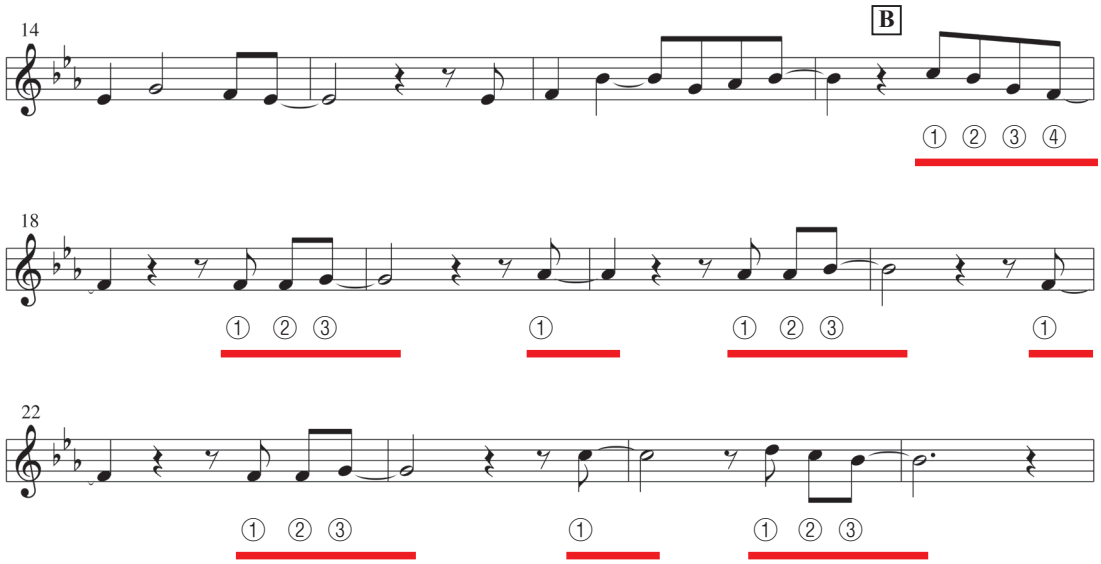
さくらの	はなびらが	ボクのてに	まいおりたよ
4文字	5文字	5文字	6文字

簡単ですね！　Aメロできちゃった！

物語の展開を考えよう　～Bメロ～　の作詞に挑戦！

Aメロ　桜の　花びらが　ボクの手に　舞い降りたよ

うん、景色が浮かんできますね、調子に乗ってＢメロも書き進めていきましょう。まずは文字数・流れのチェックです。休符などで区切られている部分をひとまとまりのフレーズとして考えるんでしたね。

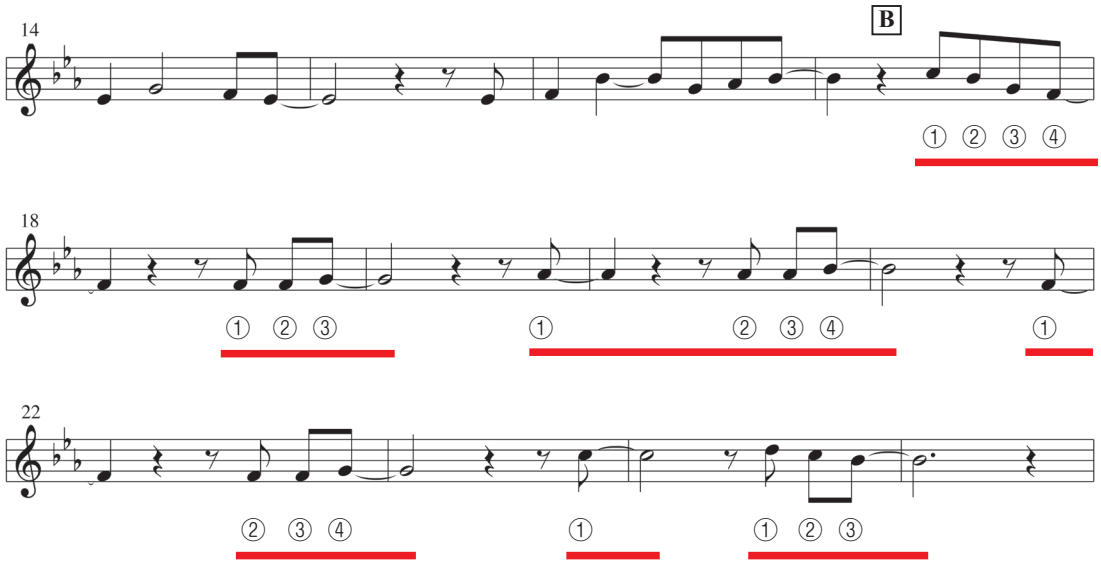


８つのフレーズをみつけることができました。

4文字・3文字・1文字・3文字・1文字・3文字・1文字・3文字

ここで大問題！　うーん…１文字!?　どうすりゃいいのさ!!

こういう場合、「感嘆詞（あぁ、おぉなど）」を入れる、という方法もありますが、あまり多用しても歌詞の中のストーリーが進みません。そんなときは、「フレーズをまとめる」という方法を使いましょう。というわけで、こんな風にまとめてみました。次のページへ急げ～～！



4文字・3文字・4文字（1文字と3文字をつなぐ）**・4文字**（1文字と3文字をつなぐ）**・1文字・3文字**

文字のつなぎ方にNGはありません（あまり長くならないほうが良いですよ）。このつなぎ方も作詞の一つのポイントで、センスのでるところですから、自分のしっくりくるポイントで試してみましょう。

さて、Aメロからの流れをそのままにして書き進めると……

Aメロ：桜の　花びらが　ボクの手に　舞い落ちたよ
↓
Bメロ：ピンクの　色の　花びら　ボクの手　あぁ　染まる

まあ、キレイに入ってはいます。でも、あまり物語が展開しませんね。今回の曲は、このBメロで展開させて、最後のA'で締めくくる予定ですから、ここはしっかりとストーリーを進める展開を考えてみます。

展開の考え方は、「いつ・どこで・誰が・どんな風に・なぜ・そのあとは」など、きっかけを与えていくような考え方をしてみましょう。ここでは「そのあとは」を使っていきましょう。桜の花びらが手に落ちてきて、そのあと思い出したことをBメロで書いていきたいと思います。

出会った　ころは　ひとりで　別れも　あぁ　知らず
4文字　3文字　4文字　4文字　1文字　3文字

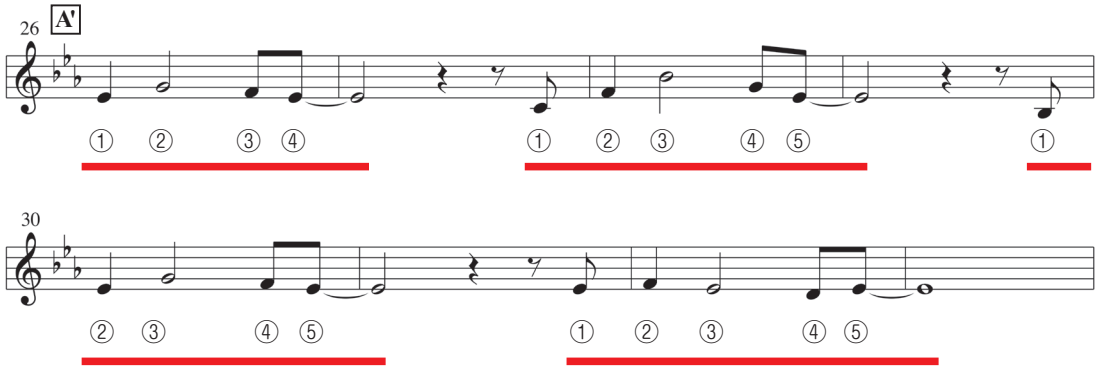
このように入れてみました。最後の「あぁ　知らず」のところは、前の1文字とつなげて「別れも　知らずに」でもいいと思いますが、Bメロの最後で、音程も高く一番盛り上がっている箇所なので、ここぞと「感嘆詞」を入れて、メロディ同様に歌詞にも盛り上がりを加えてみました。

Bメロもできました！　どうでしたか？　次は締めくくりですよ～

結末はどうなるの？　～A'メロ～　の作詞に挑戦！

Aメロ　桜の　花びらが　ボクの手に　舞い落ちたよ
Bメロ　出会った　ころは　ひとりで　別れも　あぁ　知らず

さぁBメロまでできました。ここに続く、言葉を入れていきます。この楽曲は「Aメロ・Bメロ・A'メロ」という構成でしたから、物語の結末を入れ込んでいきます。ではもう慣れてきたかな？　文字数と流れをみていきましょう。



４つのフレーズを見つけることができました。

４文字・５文字・５文字・５文字

ここで、この楽曲をどういうイメージに仕上げたいのかもう一度確認です。明るい曲にしたい？　切ない曲にしたい？　両方の例を挙げてみました。

↓明るい曲のイメージに仕上げたいなら……

A'メロ：はしゃいだ　キミとのDays　いつまでも　たからもの

↓少し切なさを感じるイメージに仕上げたいなら……

A'メロ：重ねた　季節たち　うつしだす　さくらいろ

Aメロ、Bメロときて、このどちらの歌詞を当てはめてみても「正解！」……ですが、アナタがどう持っていきたいのかでイメージはかなり変わってきます。ここでは、少し切ないイメージの方に進みたいと思います。

ということは……お！　まとまりましたね。

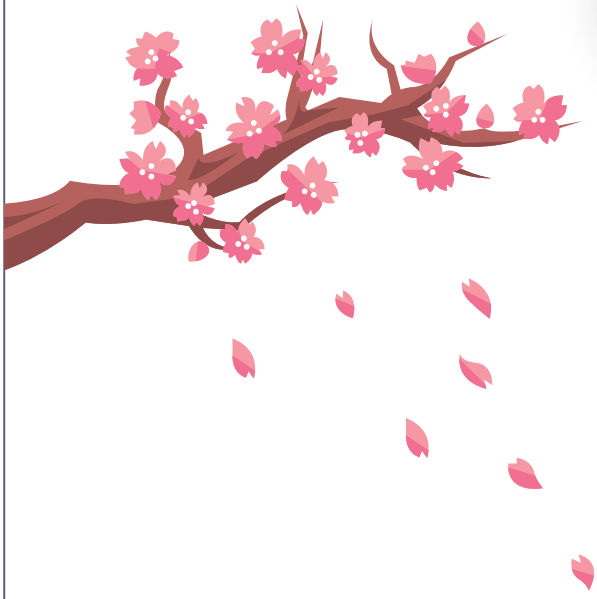
（物語の扉を開く）A メロ：
桜の　花びらが　ボクの手に　舞い落ちたよ

（展開）B メロ：
出会った　ころは　ひとりで　別れも　あぁ　知らず

（結末）A' メロ：
重ねた　季節たち　うつしだす　さくらいろ

卒業の季節、手のひらに桜の花びらが落ちてきて、友達を思い出し、出会ったころは「別れ」ということなんか意識もしない１人だったのに……。たくさん重ねてきた季節を映し出している桜の花びら。というストーリーになったかと思います。

歌詞……できた！



「作曲デキ～ル」で
作ったメロディにも
歌詞をつけてみてね

いよいよ
次のステップでは
大事な「アレ」を
決めるよ！

ステップ3

最後の仕上げ「タイトル」を付けよう

歌詞ができたら、必ずやらなければいけないことがあります。そう、タイトルづけです！　ひらがな？　漢字？　カタカナ？　英語？　さあアナタはどんなタイトルを付けますか？

作者の気持ちや意図をわかりやすく伝えよう

タイトルというのは　お店の名前みたいなもので、作者の気持ちや意図がある程度わかりやすく伝わるものがいいです。例えば、パスタやさんのお店の名前が「さぬき茶屋」だと、ん？　うどん屋さん？お茶屋さん？となるかもしれませんね（和風茶屋的なインテリアでパスタを出すお店なのかもしれないけど）。それならば、「アルデンテ」の方がパスタ屋さんだろうな、とわかるわけです。

ただ、わかりやすすぎてもダサいと感じるかもしれないし、難しすぎても覚えてもらえない。よく見かけるのが、英語で読みづらいタイトル。一見かっこいいのですが、読めないから覚えられないみたいなこともある。そんなことを考えながら、今回の歌詞をもう一度見てみましょう。

桜の　花びらが　ボクの手に　舞い落ちたよ
出会った　ころは　ひとりで　別れも　あぁ　知らず
重ねた　季節たち　うつしだす　さくらいろ

サビの頭の文字がタイトルになるととても覚えやすいです。今回はサビのない楽曲なので、一番イメージに残りやすい言葉を見つけていきます。この中だと「桜の花びら」「別れ」「重ねた季節たち」「さくらいろ」の辺りでしょうか？　ここでは一番タイトルに似合いそうな「さくらいろ」をチョイスしました。

次に「さくらいろ」の表記を考えます。
「さくら色」「さくらイロ」「サクライロ」「サクラいろ」「サクラ色」「桜色」「桜いろ」「桜イロ」etc.
ここに、「さくらいろの●●」など、追加する技もありますが、ここからは感性でつけていきます。自分でこれ！と思うものが答えなわけです。というわけで、今回はこの表記にします！

「サクラいろ」

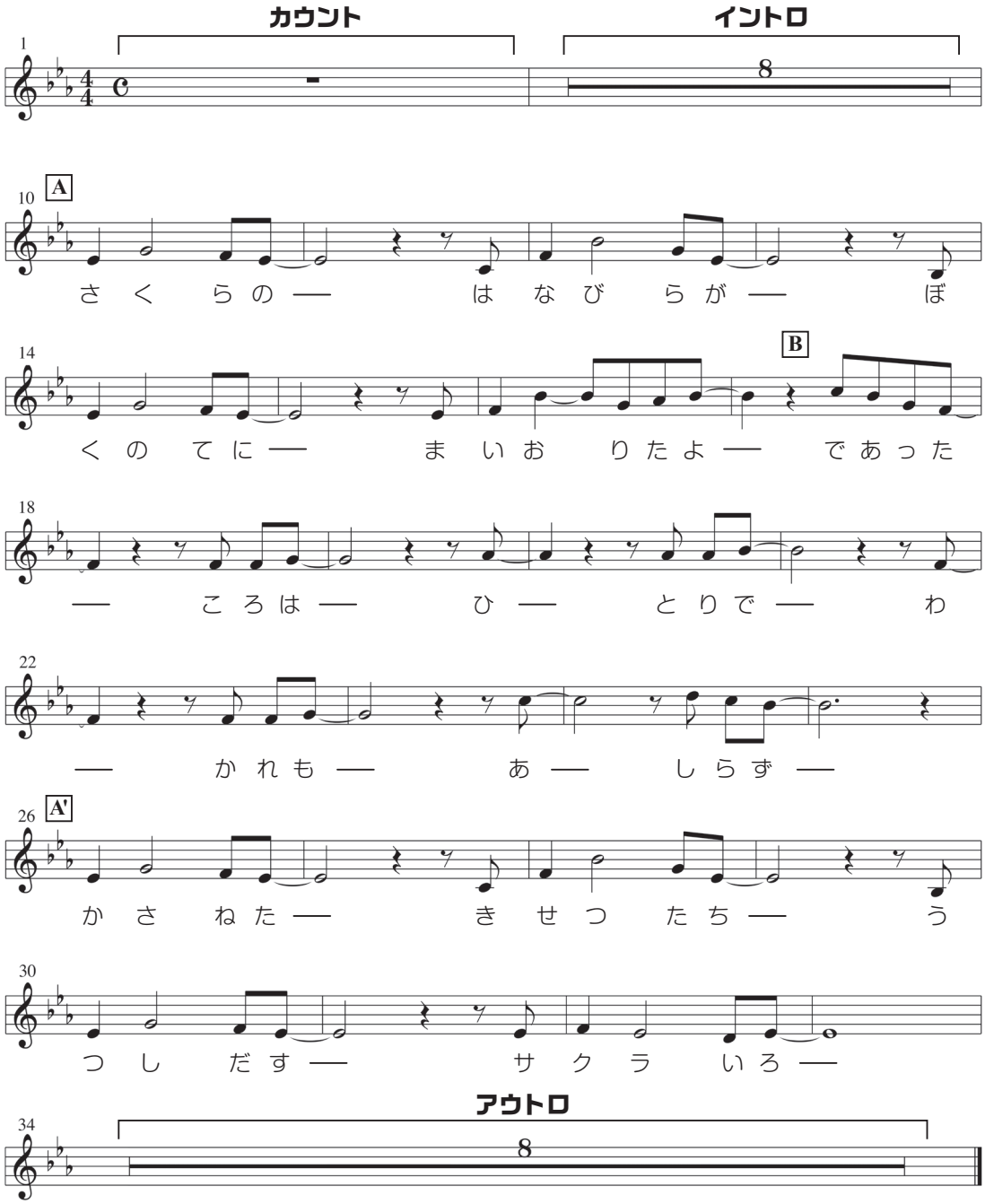
「さくらいろ」という言葉はポピュラーだけれど、「カタカナの硬さ」と、「ひらがなの柔らかさ」を使って、迷いや気持ちの変化を表したいという理由からこの表記を選んでみました。タイトルが「サクラいろ」になったので、本文も変更しましょう。

「サクラいろ」

桜の　花びらが　ボクの手に　舞い落ちたよ
出会った　ころは　ひとりで　別れも　あぁ　知らず
重ねた　季節たち　うつしだす　サクラいろ

これを、あらためて譜面に書き込んでみましょう。いよいよ完成です！！

「サクラいろ」



完成したら、必ず歌ってチェックしよう

歌詞が完成したら、必ず歌ってみましょう。イントネーションがおかしく聴こえるところはないですか？ハマりの悪いところはないですか？　ボーカロイドに歌わせる場合も、歌詞の聴こえなどを意識するかしないかで言葉の伝わり方、楽曲の伝わり方がぐっと変わってきます。ここで避けた方がいいいくつかの例をご紹介しておきましょう。

◉「ん」の言葉での高い音やロングトーン

歌ってみるとわかりますが、とても歌いづらいです。もちろん、聴く方も聞こえづらいです。

◉メロディが上がっているのにイントネーションが下がる言葉…

例えば　お箸の「はし」ということばを上行のメロに入れると、「橋」に聞こえてしまいます。

◉文字数が極端に少ない・極端に多い…

１つの音符に２つの言葉を乗せたり、「さぁ　くぅ　らぁ」などと、２つの音符に１つの文字を乗せたりした歌詞も多くありますが、極端に文字が少なかったり、多かったりするとメロディの流れがおかしくなり、本来の意図と違うものになってしまうこともあるので注意が必要です。

たくさんの歌詞を書いて、どんどん経験を積もう

お疲れさまでした！

これで、曲先の作詞の基本的なレッスンは終了です。メロディへの歌詞の乗せ方、構成の組み方、仕上げ方などを意識して作詞をしていけば、自分だけのオリジナルの歌詞ができあがるはずです！
最初はうまくいかなくても、納得がいくまで反芻をしたり、同じメロディに対して何パターンか書いてみたりと、くりかえしていくことで確実に力がついていきます。そしてできあがった歌詞を Rana に歌わせてみましょう！
何より、この世に一つしかない、自分の作品を作り出すことの楽しさをぜひ体感してみてくださいね！

自分だけの歌詞は完成したかな？